

## 【講演者プロフィール】

### アーティスト 五十嵐 靖晃 (いがらし やすあき) 氏

■1978年千葉県生まれ。■2005年東京藝術大学大学院修士課程修了。  
■人々との協働を通じて、その土地の暮らしと自然とを美しく接続させ、景色をつくり変えるような表現活動を各地で展開。■これまでのプロジェクトで、2005年にヨットで日本からマイクロネシアまで約4000km、2012年に日本海沿岸をたどる約970kmの航海を経験。“海からの視座”を活動の根拠とする。■代表的なプロジェクトとして、檣の柱を舞台に千年続くアートプロジェクトを目指す福岡県太宰府天満宮での『くすかき』(2010～)。■漁師らと共に漁網を空に向かって編み上げ土地の風景をつかまえる『そらあみ』(瀬戸内国際芸術祭2013・2016)。■山間に暮らす人々と協働し湖と雲を紐紐で結ぶ『雲結い』(北アルプス国際芸術祭2017)など。■世界の時間が一点に集まる南極で、子午線を糸に見立てて、世界中から集った人々と紐紐を組み、その紐を使って皆で風揚げをするプロジェクト『時を束ねる』(南極ビエンナーレ2017)を展開。■東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた東京都による文化プログラム『TURN』(TURNフェス /2016)(TURN in BRAZIL /2016)(TURN in BIENALSUR /2017)参加アーティスト。

### 映画監督・プロデューサー 遠山 昇司 (とよやま しょうじ) 氏

■1984年熊本県八代市生まれ。■法政大学国際文化学部卒業。ポストン大学留学。早稲田大学大学院国際情報通信研究科修士課程修了。  
■熊本・天草を舞台に撮影された初の長編フィクション映画『NOTLONG, AT NIGHT -夜はながくない-』(2012)が第25回東京国際映画祭<日本映画・ある視点部門>に正式出品され高い評価を得る。■アートプロジェクト『赤崎水曜日郵便局』(2013～)では、ディレクター・局長を務め、熊本県津奈木町にある海に浮かぶ旧赤崎小学校を再利用した本プロジェクトは全国で話題となり、2014年度グッドデザイン賞を受賞。■熊本・東京を舞台に撮影された長編映画『マジックユートピア』(2015)(共同監督:丹修一)は、第15回アンカレッジ国際映画祭コンペティション部門、第49回ヒューストン国際映画祭コンペティション部門にて審査員特別賞を受賞。■最新作短編映画『冬の蝶』(2016)は第33回テヘラン国際短編映画祭アジア・コンペティション部門にてグランプリを受賞。■2017年12月、宮城県東松島市において『鮫ヶ浦水曜日郵便局』として再開局。■全国の公衆電話を利用したアートプロジェクト『ポイントホープ』(2017～)では、ディレクター・ストーリーを担当■精力的に映画制作を行いながら、舞台作品・エキシビション・アートプロジェクトなどの企画・プロデュースを手がけながら現在に至る。

### 千葉大学 人文科学研究院 准教授 鴻野 わか菜 (こうの わかな) 氏

■東京外国語大学、東京大学大学院博士課程を経て、国立ロシア人文大学大学院修了(Ph.D.)。■千葉大学大学院人文科学研究院准教授。ロシア文学・美術専攻。  
■「銀の時代」と呼ばれる20世紀初頭の文化復興期のロシアの文学と文化を、アンドレイ・ペールイ等の象徴主義作家を中心に研究している。■また、20世紀後半から現代にかけてのロシア現代美術、現代詩、ソ連非公認芸術、大衆映画等のポップカルチャー、絵本と児童文学も研究の対象としている。■『第1回南極ビエンナーレ』(2017)では、コミッショナーであるロシア出身のアレクサンドル・ポノマリョフ氏との親交から、通訳や事務局スタッフを務め、「南極ビエンナーレ・ヴィジョン・クラブ」の研究者として、参加アーティストらと行動を共にした。■著書(共著)に、『ロシア語の教科書』(ナウカ出版)、『イリヤ・カバコフ絵本図鑑』(リーブル)、『都市と芸術の「ロシア」——ペテルブルク、モスクワ、オデッサ巡遊』(水声社)他多数。■訳書に、レオニート・チシコフ『かぜをひいたおつきさま』(徳間書店)、イリヤ&エミリア・カバコフ『プロジェクト宮殿』(共訳、国書刊行会)等。

## 【プログラム】

2018年2月28日 (水)

受付・開場 15:00～  
開演 15:30～18:30

15:30～15:40  
主催者挨拶  
感動創造研究所について  
感動創造研究所所長

15:40～18:00(途中休憩あり)  
3人の  
講演者のプレゼンテーション&  
ディスカッション

五十嵐 靖晃、遠山 昇司、鴻野 わか菜  
進行: 守法 美直(感動創造研究所)

18:00～18:30  
交流会(名刺交換会)  
出演者と参加者との交流

## 【スペシャルゲストプロフィール】

アーティスト・「第1回南極ビエンナーレ」コミッショナー  
アレクサンドル・ポノマリョフ氏



■1957年旧ソ連(現ウクライナ)生まれ。1973年オリエール美術学校卒業、1979年オデッサ工科大学海洋学部卒業。  
■大学卒業後、航海士として数年を海の上で過ごす、1982年健康を害し陸に戻り、アーティストとしての活動を始めた。  
■80年代半ばから現在にいたるまで海をテーマとする作品を世界各地で発表している。■『第52回ヴェネツィア・ビエンナーレ』(2007)ロシア代表を務める。■『ヴェネツィア・ビエンナーレ』(2009,2015,2017)に参加。■『ヴェネツィア建築ビエンナーレ』(2012、2014)等に参加。■『瀬戸内国際芸術祭』で日本で初めて作品を発表した(2016)。■『南極ビエンナーレ』コミッショナーとして、第1回南極ビエンナーレを実現させた(2017)。

## 【主催・事務局】

感動創造研究所 担当: 高山・小原・守法  
〒135-0061  
東京都江東区豊洲3-2-24豊洲フォレシア  
<http://www.kandosoken.com>

問い合わせ先  
TEL:03-6221-0840  
FAX:03-6221-1913  
Email: [headoffice@kandosoken.com](mailto:headoffice@kandosoken.com)

フォーラムへの参加を希望される方は、貴社名、所属部署名、  
学校名、ご出席者名、年齢、連絡先(郵便番号、住所、TEL、FAX、  
Email)を ご記入の上、左記の問い合わせ先までご連絡ください。

## 【会場案内】

8/01/COURT(渋谷ヒカリエ8階)

〒150-8510 東京都渋谷区渋谷2-21-1  
03-6418-4718

<http://www.hikarie8.com/about/>

### 公共交通機関からのアクセス

東急東横線・田園都市線、東京メトロ半蔵門線、東京メトロ副都心線「渋谷駅」15番出口直結  
JR線、東京メトロ銀座線、京王井の頭線「渋谷駅」と2F連絡通路で直結

## ● 駐車場案内



感動創造研究所  
KANDOSOKEN